Engineer プラットフォーム

文書作成

18 件の実績

システムの各部分を結び付ける

「文書作成」に分類した実績は、稼働するシステムの一部分を示しています。その部分を他の業務につなげるお手伝いをします。 アカウント、パスワード、権限を整理し、業務に必要なアクセスだけを付与し、退職者の権限は当日に解除します。

サービスを見る お問い合わせ →

比較できる課題を探す

ご自身の状況に近い事例をご覧ください。振り返りでは、技術名だけでは分からない、結果を導いた判断を説明しています。 Linuxサーバーを守る1,000件のRBACルールを作成 — 1,000 セキュリティ上の穴を塞ぐアクセスルール

Linuxサーバーを守る1,000件のRBACルールを作成 お問い合わせ →

Linuxサーバーを守る1,000件のRBACルールを作成

開発者、アプリケーションインスタンス、PostgreSQL、MS SQL、その他のLinuxサーバーに1,000件のRBACルールを実装して不正アクセスを防ぎ、データセキュリティを強化。Ansibleによる自動化として記録した。

チームの意思疎通と協働を改善

Slack、Mattermost、1Password、Jiraを導入してチームの意思疎通と協働を改善し、8,000時間の作業を削減した。

go-taskの自動化ターゲット578個を作成

ネイティブ、Docker、HTTPSの開発モード、静的検査、テスト、データベース、デプロイをカバーする、go-taskの自動化ターゲット578個を作成した。

6言語に警告ゼロの基準を設定

Go、TypeScript、SQL、Python、Shell、Markdownの6言語に警告ゼロの品質基準を設け、pre-commitフックで適用した。

268検査を持つリポジトリの検査基盤を構築

登録済みコミット検査268件、静的検査ルール277件、独自ESLintルール15件からなるリポジトリの検査基盤と、検査自体を試す146件のテストを構築し、人のレビューだけに頼らずビルドで基準を守るようにした。

継続的なセキュリティ検査を運用

コード検査、DAST、依存関係・脆弱性検査、SBOM生成、秘密情報検査、SHA固定のActionsと、21件の文書によるセキュリティ監査を組み合わせた継続的なセキュリティ活動を確立した。

リポジトリで定義するインフラ

12,065行のYAMLにわたる19本のAnsible プレイブックと34個のロールで自社インフラを構築し、すべてのプレイを冪等にして、稼働中のホストを宣言した状態へ収束させた。

復元方法を明示したバックアップ自動化

resticのバックアップを、保持期間、整合性検査、毎月の復元テストとともに自動化し、ストレージの有効化と実環境での復元検証を別の運用手順として記録した。

読み取り専用のホストレポートロールを7個構築

事実、アクセス、git、指標、トラフィック、セキュリティ、プロバイダー資産を、稼働ホストからMarkdownにまとめる7個の読み取り専用レポートロールを構築し、実行で測定していない数値は出力しない規則を設けた。

認証情報漏出後に対象範囲の規則を記述

構成変更によって別会社の資産一覧、ファイアウォール許可、文章が混入したことを受け、リポジトリの対象範囲を定める規則を記述し、隔離した残存物も除外せず秘密情報検査の対象に残した。

22静的検査のコミットゲートを構築

HTML、CSS、JavaScript、Python、YAML、Markdown、Shell、リンク、綴り、秘密情報、組版を対象に、1行で説明できる検査22個と詳しい説明が必要な検査5個からなるコミットゲートを構築し、警告扱いや行内抑制を認めない方針にした。

10,242行の品質ゲート自体に静的検査を適用

リポジトリ最大のコード群でありながら検査対象外だった品質ゲートのJavaScript 10,242行に整形・静的検査を適用し、13件の指摘を抑制せずに修正した。

すべての静的検査ルールをエラーに設定

Python静的検査の全ルールをエラーとして有効にし、1,815件の指摘を0件まで解消。少数の例外には理由を書き、うち2件はコメントだけでなく検査によって根拠を守った。

フックと品質ゲートの不一致を発見

同じ検査を行うという文書の記述に反し、コミットフックと品質ゲートが異なる検査を行っていたことを、一覧を比較するテストで発見。手動でしか動かなかった5個は履歴書の文章を検査するものだった。

全FFI呼び出しを検証する構文解析器を作成

手書きの仮Cヘッダーで、削除済みの3関数を呼んでもコンパイル・リンクが通り実行時に落ちた問題を受け、実際の7,308行のCヘッダーを読み、全呼び出し箇所、列挙定数、ポインター所有クラスのfinal指定を検証する構文解析器を作成した。

公開するすべての部品のライセンスを把握

毎回のビルドで644個のRust crateのライセンス互換性を監査し、1つのcrateのライセンスを書き換えた場合と、再生成せずコアの固定リビジョンを変えた場合に検査が働くことを実証した。

4リポジトリで共通の履歴基準を維持

4つのリポジトリに対し、Conventional Commits、絵文字禁止、帰属トレーラー禁止という共通の履歴基準をコミットメッセージフックで適用し、作業方法を定める48件の指示文書とともに運用した。

6収集処理が省略した入力を明示

6つのレポート収集処理が、未読ファイル、未導入の検査、認識できなかったjournal行など、読み取れなかった入力範囲を明示するよう変更。収集不能と正常なホストが同じページになると確認し、116件の実測サンプルから閾値を定めた。

技術的な取り組みを絞り込む

デプロイの流れ、運用上のリスク、緊急対応の担当者をお知らせください。検査、復旧手段、明確な責任の所在を伴う変更の範囲を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

自社の状況に当てはめる

お使いのシステムで「文書作成」がどのように関わっているかをお聞かせください。適したサービスを選び、その業務範囲を定めるお手伝いをします。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://platform.engineer.company/ja/categories/documentation/